

## ★オムツ交換のポイント★

- ・入居者の尿や便には、一見感染症がない方でも薬剤耐性菌が高率に含まれています。また、ノロウイルスなどの消化器症状を起こす病原体も、便中に排出されて施設内で伝播します。誰が何を保有しているか判別できないので、全ての尿・便について同じように注意しながら作業しましょう。
- ・尿や便中の病原体は、トイレや汚物室の環境中にも広がっています。トイレ・汚物室へ入る際にも、病原体に汚染されないように注意しましょう。
- ・便の状態の変化により、ノロウイルスをはじめとする感染性胃腸炎の発症にいち早く気付ける可能性があります。入居者の便の性状を確認することは、感染対策上も有用です。

## ■ この作業に必要な个人防护具 ■

・通常のオムツ処理  
使い捨て手袋  
サージカルマスク  
使い捨てビニルエプロン



・感染性胃腸炎（ノロウイルス等による）  
などにおけるオムツ処理  
使い捨て手袋  
サージカルマスク  
使い捨て袖付きガウン



オムツ交換（とくに陰部洗浄のとき）  
では、目には見えない  
病原体がたくさん飛散します。  
ビニルエプロンを適切に着用し、  
ユニフォームの汚染を防ぎましょう！



## ■ 施設全体の管理 ■

- ◆どんなに気を付けても、オムツの集団交換（同時に多人数を対象とした定時交換）には病原体伝播のリスクがあります。集団交換から個別交換への移行を目指しましょう。**目標**
- ◆使用するパッドの種類や、交換タイミングを工夫することで、オムツ交換回数を減らし、1回1回の交換の質を向上できます。これにより、オムツ交換時の感染対策も十分実施できるようになるため、効率的なオムツ交換のための検討を定期的 to 実施しましょう。**目標**
- ◆オムツ交換の手技そのものに関して定期的に勉強会・研修会を実施しましょう。企業を含めた外部講師による講習会なども適宜利用すると良いでしょう。**目標**
- ◆オムツ交換時の手指衛生を実施する利便性から、手指消毒用アルコール製剤を個人携帯できるポシェットがあると便利です。**目標**
- ◆オムツ交換車は、病原体伝播の原因となるため、使用をやめることを目標としましょう。**目標**
- ◆運用上、どうしてもオムツ交換車を使用しなければならない場合、下記を参考に運用を見直して下さい。**守る!**

### ★ オムツ交換車の運用に関する注意点 ★

1. これから使用する物品（オムツ・手袋・エプロンなど）が汚染されないデザインにしましょう。**守る!**
2. これから使用する物品用のカートと、使用後オムツ・汚染手袋やエプロン等を廃棄するカート（小型のランドリーカートにゴミ袋を被せて使用すると便利です）の2台運用とするのも良いでしょう。**次善策**
3. 1台での運用の場合、これから使用する物品のある場所と同じエリア、または接したエリアに使用後オムツを廃棄する場所を設置してはいけません。**ダメ!**
4. 使用後のオムツに触れた手で、これから使用する物品を触ることがないように、動線を工夫しましょう。**守る!**
5. 使用後のオムツを廃棄するカートは、使用後にアルコール消毒または消毒薬含有ワイプ（環境クロス）で清拭しましょう。**守る!**
6. オムツ交換車は、清潔物品のある場所（ガーゼや医療器具、消毒薬の保管場所など）や、明らかに汚染が多い場所（汚物室やトイレなど）に置くことを避けましょう。**ダメ!**

- ◆胃腸炎が流行している時期・地域では、可能な限り、オムツ交換を実施したスタッフが、そのまま食事介助に入らず済むように業務を見直しましょう。**目標**
- ◆オムツ交換を2人のチームで実施し、体位交換や新しいオムツなどの物品の準備を行うスタッフ<手指の汚染を可能な限り避けるスタッフ>と、オムツ交換とオムツ廃棄を行うスタッフ<手指が汚染するスタッフ>に分けて作業できるように、チーム編成を工夫しましょう。**目標**

◆陰洗ボトルは病原体が伝播する原因となるため、入居者ごとに交換できるように準備しましょう。

**目標**

◆使用後の陰洗ボトルは毎回洗浄・消毒します。洗わずに、そのまま翌日使用してはいけません。**ダメ!**

※陰洗ボトルの洗浄・消毒については、「物品の洗浄・消毒」の項を参照。

◆感染症の有無や、消化器症状（嘔吐や下痢）の発生があらかじめ分かっている場合、以下の入居者のオムツ交換は順番を最後にした方が良いでしょう。**目標**

★ オムツ交換の順序を最後にすべき入居者（数字が小さいほど最後にした方が良い）★

1. 新型コロナウイルス感染症の入居者（疑い・濃厚接触者を含む）
2. 治療中の角化型疥癬がある入居者
3. 消化器症状（嘔吐・下痢など）のある入居者
4. （ノロウイルスを含む）感染性胃腸炎に罹患し、症状消失から7日間経っていない入居者
5. 血液や浸出液が出る程度の褥瘡や創部、熱傷などがある入居者
6. インフルエンザに罹患し解熱して5日間経っていない入居者

## ■ オムツ交換時の个人防护具 ■

◆オムツ交換の開始前には、手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。**守る!**

◆あらかじめ髪は束ね、腕時計や指輪は外しておきましょう。**守る!**

◆オムツ交換の基本的な个人防护具は、使い捨て手袋・使い捨てビニルエプロン・サージカルマスクです。**守る!**

※2人でオムツ交換を実施する場合には、直接オムツを交換するスタッフ（不潔）と体位変換などを行うスタッフ（清潔）で役割分担を行います。清潔担当のスタッフは、汚染した物品に触れないように注意します。この場合、清潔担当のスタッフは手袋・エプロンの着用はなくても良いでしょう。（万一手が汚染されたら、直ちに手指衛生を実施して下さい。）

※新型コロナウイルス感染症の入居者（疑い・濃厚接触者含む）に対応する場合、フェイスシールドまたはゴーグルも着用できると安全です。**目標**

◆何らかの病原体が伝播される可能性のある入居者のオムツ交換（以下の表参照）については、ビニルエプロンの代わりに、使い捨て袖付きガウンが着用できると良いでしょう。手首が出ないように注意します。**目標**

◆見た目はきれいであっても、使用後の手袋・エプロンは病原体に汚染されています。これから使用する物品を汚染しないように注意して作業しましょう。**守る!**

◆オムツ交換時の个人防护具◆			
入居者の背景	手袋	防護衣	マスク
1. 通常の入居者	着用する	使い捨てビニルエプロン	着用する
2. 出血や浸出液のない血液媒介感染症 (B型肝炎・C型肝炎・HIV感染症)を持つ入居者			
3. 出血や浸出液のない, 薬剤耐性菌を持つ入居者			
4. 梅毒検査陽性の入居者			
5. 血液や浸出液が出ている入居者		使い捨て袖付きガウン が望ましい (ガウンがなければビニル エプロンで代用し, 作業後 に手指衛生の範囲を肘上ま で拡げて実施する)	
6. 角化型疥癬等, 感染性の高い皮膚感染症のある 入居者			
7. 消化器症状(嘔吐・下痢)のある入居者			
8. (ノロウイルス等による) 感染性胃腸炎に罹患 し, 症状消失から7日間経っていない入居者			
9. インフルエンザに罹患し解熱して5日間 経っていない入居者			
10. 新型コロナウイルス感染症の入居者 (疑い・濃厚接触者含む)			

※5～10では, 手袋とガウンを使用後直ちに廃棄し, 複数の入居者に対して使用してはいけません。

**ダメ!**

※1～4でも, 手袋は入居者ごとに交換し, 手袋を外した際に手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施しましょう。 **目標**

※1～4でも, 可能な限りビニルエプロンを入居者ごとに交換しましょう。 **目標**

※1～4のケースで, 集団交換を実施している場合, 最低でも部屋ごとにエプロンを交換しましょう。この場合でも, 少しでもエプロンが汚染されたら, すぐに交換しましょう。 **次善策**

## ■ オムツ交換時の注意点 ■

### <<準備>>

- ◆入居者の体の表面をよく確認し、褥瘡や皮膚病変の有無に注意します。異変があれば看護責任者へ報告しましょう。**守る!**

### <<実施>>

- ◆2人で実施できる場合、体位交換や新しいオムツなどの物品の準備を行うスタッフ<手指の汚染を避けるスタッフ>と、オムツ交換・オムツ廃棄を行うスタッフ<手指が汚染するスタッフ>に分けて作業します。**目標**

- ◆手指が汚染するスタッフは、これから使用する物品、入居者ベッド周辺環境、カーテンなど、汚染させたくない部分には触れないように心がけましょう。**守る!**

- ◆陰洗ボトルは入居者ごとに交換しましょう。**目標**

※どうしても陰洗ボトルを複数の入居者に連続して使用しなければいけない場合、ボトルが便などで汚染された場合には、新しいボトルと交換しましょう。**守る!**

※最低でも、新型コロナウイルス感染症（疑い・濃厚接触者含む）、消化器症状（嘔吐・下痢など）のある入居者、感染性胃腸炎の入居者、血液や浸出液が出る褥瘡・創部・熱傷などがある入居者に使用した陰洗ボトルは、別の入居者に使用してはいけません。**ダメ!**

- ◆陰部に付着した便は十分に洗浄し、膣内などに残らないように注意しましょう。（尿路感染症の原因となります）**守る!**

- ◆使用後のオムツは、専用の廃棄容器に入れるか、ビニル袋で密閉します。床に新聞紙を敷き、そこに捨てていく方法は周囲を汚染する可能性が高く、推奨しません。**目標**

- ◆個別交換の場合にも、使用後のオムツはビニル袋などで密閉した状態で運搬しましょう。使用後のオムツを丸裸で持ち歩いてはいけません。**ダメ!**

- ◆足りない物品を取りに行くなど、オムツ交換の途中に入居者の部屋から出る場合には、手袋とビニルエプロンを外し、手指消毒用アルコールによる手指衛生を実施してから出ます。**守る!**

※个人防护具を着用したまま部屋の外のものに触ってはいけません。**ダメ!**

### <<片付け・次の作業への準備>>

- ◆一人のオムツ交換が終わったら、まず手袋の表面になるべく触らないようにして手袋を外して廃棄します。次に手指衛生を実施した後、エプロンの表面を持ち、体から離してエプロンを外します。エプロンは小さくたたんで廃棄しましょう。**目標**

- ◆手袋とエプロンを廃棄したら、手指消毒用アルコールで手指衛生を実施し、乾いたら新しい手袋を装着します。**守る!**

- ◆ 消化器症状（嘔吐や下痢）のある入居者や、（ノロウイルス等による）感染性胃腸炎に罹患し、症状消失から7日間経っていない入居者のオムツ交換後には、手指消毒用アルコールによる手指衛生の後に石けんによる手洗いを加えた方が良いでしょう。**目標**
- ◆ 全ての作業終了後、手袋>手指衛生>エプロン>手指衛生>マスクの順に脱ぎ、石けんと流水で手洗いを行いましょう。（肘まで洗うと良いでしょう）**守る！**
- ◆ 新しく始まった下痢や軟便を発見したら、看護責任者へ報告しましょう。**守る！**

## ■ 疥癬・ノロウイルス等による感染性胃腸炎・新型コロナウイルス感染症に関する注意点 ■

- ◆ 使用後のオムツにも感染性があるため、ビニル袋を用意しておき、脱衣と同時にオムツをビニル袋に入れて口を縛り、その後は他のオムツと同様に扱います。**目標**
- ◆ 感染性胃腸炎が流行している時期には、予期せぬ下痢がオムツ内にあった場合にも、上記の対策を行った方が良いでしょう。**目標**

※この手順書は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受けて作成したものです。

採択年度：2018年度 事業名：長寿・障害総合研究事業 研究期間：2018年4月—2021年3月

課題名：長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発 研究代表者：笹原鉄平（自治医科大学）